令和元年度第３回安中市DMO推進委員会　議事概要

開催日：令和２年３月２７日　１０：００～１２：００

場　所：安中市役所　松井田庁舎　２階　特別会議室

挨拶：

武井副委員長

地域の活性化とは経済活動への貢献であり、観光資源を生かしていくことがDMOのやるべきことであると思う。前向きな姿勢をもって、DMOを通して地域を元気にしていきたい。今後も、成功や失敗を繰り返し、事業のブラッシュアップを行っていく。みなさまにも引き続きご協力いただきたい。

清水顧問

安中市ではいよいよDMOの本領が発揮される時期であると思う。観光客にはお金を使ってもらえる仕組みを作り、DMOが経済を潤す役割を果たしてほしい。安中市では「廃線ウォーク」を中心に、人気を集めている。これは、眠っていた資源を再活用し成功を収めた良い事例である。最近ではJRの冊子などで廃線ウォークを見かけることが多くなった。JTBの旅冊子でも紹介されており、全国に認知されるような体験プログラムになっている。来年度以降は、DMOが中心となって、地域を煽り立てる役を担ってほしい。観光庁の発表では、いよいよ全国のDMOでダメなところは認定を取り消すという動きが見えてきた。安中市もより一層頑張ってほしい。

議題：

大竹課長

令和元年度内閣府のKPIについて、経過報告

〇観光客数　９６万人

〇DMO会員数　９３件

〇独自の雇用　２名増

令和元年度観光庁のKPIについて

〇観光宿泊者　約１５万

〇消費額　集計中（対面調査がコロナウィルスの影響で実施できなかったため）

〇ボランティアガイド人数

〇滞在型プログラム数　２４８プラン

〇メディア掲載数

推進交付金について：

依田事業部長

実施事業内容について説明を行う。別紙、委員会資料を参照

質疑応答：

特になし

総評：

清水顧問

観光庁のガイドラインを配布したので、見てもらいたい。今までの行政の観光の仕事とは違い、DMOではお客様に来てもらい、地域を豊かにする必要がある。しかし、日本国内の多くのDMOがうまくいっていない。観光庁でも問題視され、もう一度ガイドラインの策定を行っている。その１つがDMOの取り消しである。

ポイントはDMOが主導して観光業を担うことである。行政が強く権限を持ってしまうと、失敗に繋がる。補助金を使用するが、DMOが主導を持つことが今後必要である。

行政との絡みについて、重複したような業務こなすことは無駄である。例えば、同じパンフレットやホームページを作成し、お互い別々で運用することは無駄である。行政とは常に話し合いを行うことが必要である。

最近ではサービスエリアに駐車し、付近を観光したいというニーズが多くある。横川も例外ではなく、鉄道文化むらまで歩いていきたいという人もいる。

行政の観光課の規模を縮小し、DMOに出向させる自治体もある。それくらい連携することが成功には必要であると思う。

あんとりっぷの市内配布など、住民を巻き込む動きは重要である。しかし今後は年１回で十分ではないと思う。旅館や宿泊場には、DMOと繋がることで儲かると思ってもらう仕組みが必要である。今は、単に旅館に泊まれば良いというお客様は少ない。必ず付近の観光地を巡るプランが必要である。１つ来年度予算で、ホテルや旅館へのWeb広告への支出は、無駄であると思う。旅館からすれば、DMOのWeb広告への協力は当たり前のことであり、そこにお金を付けることは無駄であり、ありえない。DMOが中心となり、一緒に事業を展開していく時代である。

効果測定調査には、ビックデータで行うべき調査と対面調査の２つが必要である。両輪で行うことを今後も継続してほしいと思う。

全体的には安中市は成功していると思う。滞在プログラムの売り上げは全国的に見ても、しっかりできていると思う。DMOの中には、４年目になっても売り上げがなく、厳しいDMOが多く存在する。まだまだやるべきことがあると思うが、他に負けないよう頑張ってほしい。

挨拶：

委員長（代理　粟野副市長）

DMOは市一丸となって応援していきたい。市長や副市長を色々な場面で使っていただきたい。

DMOが主導的な役割を果たすことについて、今はまだどっちつかずの状態であると感じている。今後は観光課職員と連携し、DMO主導を実施してもらいたい。そのためには、DMOにはより多くのアイディアを出してほしい。特に碓氷峠の活用が大事である。安中市観光機構と碓氷峠交流記念財団がより協力しアイディアを出し合い、碓氷峠を一大観光名所にしていきたい。また、磯部温泉も同じく、恋人の聖地などあらゆる仕掛けを行うことで、より多くにお客様に来てほしい。

観光地として、活性化するためには、横の繋がりが必要である。今は、１つ１つが独自で行っているような状況だと思う。市一丸となってお客様をおもてなすことが求められる。

清水顧問の話しの中であったように、DMOは煽り立てる役であると思う。独自で事業を行うのではなく、オール安中で地域の活性化に繋げてほしい。

その他意見：

上原委員

地域の観光は難しいと感じる。多くの先生に意見を聞いても、なかなか答えが見つからない。宮崎県のように象徴的に行い成功した例もある。DMOを活用し、より活発に事業を展開してほしい。今年度も補助金で安中市の整備に協力した。県でもお手伝いできることはあるので相談して、今後もぜひ活用してほしいと思う。

三宅委員

国際交流協会でも、インバウンドのお客様対応にご協力できれば良いなと思う。今は、新型コロナウィルスの影響により減少しているため、少しでも早く回復してほしい。最近ではキャンピングなどが盛んであるので、自然を活かした観光を勧めてほしいと思う。

田村委員

新型コロナウィルスで３月４月と磯部温泉では厳しい状況が続いている。DMOと連携し、少しでお客様の回復に向けて頑張りたい。磯部温泉では昨年からホームページを作成した。見てもらえるホームぺージを目指し、情報発信していきたい。

前島委員

安中市を盛り上げるために安中青年会議所があると思う。市民が住みやすい、県外から来ても魅力的な市を作り上げるために協力していきたい。

堀米委員

ご意見賜りましてありがとうございました。観光課と安中市観光機構の連携を進めていきたいと思うので、引き続きご協力いただきたい。